

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:11.

局所麻酔手術における緊急時の初動対応—抗生剤によるアナフィラキシーショック出現時のシミュレーションを通して—

岩城 静香, 森田 さと美, 加納 ななみ, 佐藤 洋子, 山近 真実

## 局所麻酔手術における緊急時の初動対応

### —抗生剤によるアナフィラキシーショック出現時のシミュレーションを通して—

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション

岩城静香 森田さと美 加納ななみ 佐藤洋子 山近真実

#### 【はじめに】

平成27年度、A病院手術部の手術件数は7,454件で、そのうち局所麻酔手術が全体の32.6%を占めた。近年、患者の高齢化や合併症のある患者も多く、看護師は患者が急変する可能性を考慮する必要がある。患者の急変時は、看護師が主体となってstattコールを行い、手術部スタッフに応援を要請している。しかし、stattコールを聞いた看護師からは、「駆けつけてもすべきことが分からない」という声が聞かれていた。今回、麻酔科医や臨床工学技士の協力を得て、局所麻酔手術での患者の急変を想定したシミュレーションを行った。

#### 【目的】

手術部看護師がシミュレーションを通し、局所麻酔手術での緊急時の初動対応が理解できる。

#### 【方法】

I. 対象：手術部看護師

II. 実践内容

1. 「局所麻酔下手術の患者に手術前の抗生剤を投与中、アナフィラキシーショックが出現し意識が消失した」と場面設定し、看護師・外科医・麻酔科医役に役割分担した。緊急時の初動対応を、①患者の意識レベル・バイタルサインを把握する ②手術部全体に緊急度がわかるstattコールする ③緊急時に必要な物品（緊急薬剤、DC）を取りに行く、の3点とした。
2. 実施後、麻酔科医を指導者とし、緊急時の注意点やポイントを振り返った。
3. 看護師に緊急時の初動対応3点の理解度についてアンケートを実施した。

#### 【倫理的配慮】

アンケートは趣旨を口頭と書面で説明し、ア

ンケートの回収をもって同意を得たとする。

#### 【結果】

今回のシミュレーションで、看護師24名、麻酔科医師3名、臨床工学技士2名が参加した。アンケートの結果、初動対応①②③について、理解できた・概ね理解できたが100%であった。自由記載には「患者の意識・呼吸・脈拍・心電図を確認することが重要と感じた」「大至急という言葉をつけ、内容を2回繰り返す」「緊急薬品・緊急カート・DCを準備する」等とあった。

#### 【考察】

阿部は、シミュレーション教育を「臨床現場を疑似体験することから実践力をつけていくという学習・訓練である」<sup>1)</sup>と述べている。

緊急時のシミュレーションの参加者は、手術室で起こりうる場面設定に基づいて実施したことにより、患者の急変時をイメージでき、主体的に臨むことができた。また、緊急時の初動対応を3点に限定したことが、理解のし易さに繋がった。患者の急変時にとる行動が一連の流れでわかり、シミュレーション後の振り返りで行動の意味や注意点を理解できたと考える。

#### 【まとめ】

参加者全員が、局所麻酔下での抗生剤によるアナフィラキシーショック出現時の緊急時の初動対応を理解することができ、患者の安全に繋がった。今後も緊急時の初動対応シミュレーションを継続していくことが必要である。

#### 【引用文献】

- 1) 阿部幸恵：シミュレーション教育を支える教育観とプログラム作成の一連．看護管理 19 (11)：923-928. 2009